

◀ 巻 頭 言 ▶

「安全について」

理 事 井 上 孝 昭

皆さん耳にタコができているでしょうが、安全について考えてみたいと思います。

「安全」とは何でしょうか。ものの本によれば「危なさを把握する仕組みを持ち、対策を講じ、その上で付き合わざるを得ない危なさについては、承知して管理下に置く。これが継続的に行われている状態、つまり、危なさとし正しく向き合った状態」と説明されています。

皆さんは船上・機関室の責任者として作業の安全を保たなければなりません。部下や同僚にどうやって伝え、実践していますか。

第一に重要なポイントは「作業環境の整備」だと思います。安全を実践できる環境を提供しなければ実行できるはずありません。清掃され、整理・整頓された環境が必要です。雑多な物が置き散らかされた場所で作業をすれば、蹴躓いたりすることは容易に想像できます。また付随して物品の紛失にもつながるでしょう。まずは常日頃から安全な作業ができる環境を整えることが大切です。

二番目は「道具がちゃんと使えること」でしょうか。柄から抜けてしまうようなハンマーでは力仕事はできません。ディスクサンダーのような回転道具の取り付けが不十分であれば使用中にディスクが飛んできて大怪我になります。日々の点検と使用前の確認を十分に行うこと、すなわち点検整備が大切です。

三番目は「作業前に関係者で確認した手順に従って作業を行うこと」です。付随して言えば、標準保護具の着用もこれに含まれま

す。皆が理解した手順に従い保護具を着用することで作業ミスの防止に繋がります。

もし手順通りにできなくなったら、作業を中断し、関係者で再協議して新たな手順を確立して再開すべきです。

主機や発電機の開放整備作業はメーカーのインストラクションがあって、その通りに進めていけば完遂できるようになっていますが、時として違う状況が生じます。その時は皆で顔突き合わせて相談して進めた経験があると思います。標準作業手順に則って作業することが安全への近道であり、支障が生じたら一度中断・相談して遠回りすることが安全への近道となること、皆さんの経験の通りです。

四番目は「安全教育」。V R教材を使った疑似体験ができれば「べからず」教育に最適ですが、簡単にはK Y T。仰々しく考えると面倒なK Y Tですが、その作業で考えられる危険について認識を共有し、それを防ぐための禁止行動や回避行動を確認するだけでも効果はあるはずです。

昔ある上司から「船の上が危ないのは当たり前だと思っていたら安全確保への前進はない。危なくないようにするのがお前の仕事だ」と言われたことがあります。その通りだと思います。危険の管理・排除を継続的に行って自身と仲間の安全を確保してください。

